

突如現れた謎の魔物

『オーク』

ドライバーが不在の状態

力を出し切れなかった私は敗北してしまっただけです

「はあっ…はあっ……」

魔物の強力な一撃を受け立ち上がることができないほどのダメージを受けた私に

オークたちはゆっくりと近寄ってきました

嫌らしい笑みを浮かべながら獲物を舐めまわすように……

その答えはすぐにわかりました……

ダメ…動けない…

「はあ…はあ…」

彼らの股間から伸びてきた黒くて…太く…とてつもなく長いそは…

『生殖器』

「ひっ!!」

「なっ…何それっ!!」

「まさか…!!!」

「私を…っ!!」

気づいた時には手遅れでした

武器は奪われ私は押さえつけられてしまっただけです

怪物はグロテスクな形をした  
性器を、私の未開拓の  
アソコに押し当ててくる…

ゆっくりと、狙いを  
定めるように…

こんな怪物に  
犯されたくないっっ!!

「だめ…  
こないでえ…っ!!」  
「ん…ん…  
入るわけ…」

私のアソコは  
入ってこようとすると  
生殖器を必死に  
押し返そうと抵抗しました

でも、その抵抗も  
空しく…

処女膜が裂ける音とともに  
アソコの肉をこじ開けられ

あっという間に最奥に  
ある子宮口体当たり  
してきたのです

「あ…あ…っ  
痛いっっ!!」

「アソコは限界まで広げられ  
肉が裂けそうになり  
下腹が盛り上がるとほどの  
衝撃が子宮を襲いました」

「い…やあああああ…っ!!」

私の…初めてが…こんな…

あああ…

「あっあああ……っ!!」

「激し……っ!!」

「やめ……っ」  
「やめてえっ!!」

「壊れるっ私の  
大事なところが……っ  
壊れちゃうっ!!」

最奥にある  
子宮口目掛けて  
何度も怪物の生殖器が  
叩きつけられる

苦しいはずなのに  
別になんでこんな  
お腹が熱くなってるの!!

「デル……デルッ!!」  
突如告げられた  
死刑宣告に  
私は正気に戻り

「……!?」

「ま、待つて!」

「それだけは!」  
「それだけはダメえっ!!」

孕まされる

必死の懇願……

でも……

そんなものは彼らの  
嗜虐心を高めるだけだった





『あッ!! あッ!! あッ!! あッ!! あッ!!』

『でてる...』

『私の膈内...』

ブレイドである私には  
流れ込んでくる精液が

恐ろしいほど  
濃厚なエーテル  
を含んでいることに  
気が付きました

精液はあっという間に  
子宮を満たし

卵管の奥にある  
卵子目掛けて  
殺到してきたのです

『ダメ...逃げられない...  
私の卵子...』

『あッ!! あッ!! あッ!!』

『レックス...私...』

『私...』

「ばあ…ばあ…」

まだ…受精して…ない…

でも…子宮の  
中に出された  
精液のせいで…

エーテルが  
引き出せない…

力が…使えない…  
体に…力が…入らない…

「ツギ…オレ…ノ…バン…」

力なく横たわる私に  
次の凌辱者が  
迫っていました

「ひ…ひ…」

さっきより…  
大きい…

この怪物は  
本当に私を  
孕ませる  
つもりであり

たった1回で  
終わるわけがないと…

まだ、始まったばかり  
だということを…

当然だった…

「お…お…お…」

私は犯され  
続けていました

彼らの激しい性行為で  
消耗させられた私は  
大した抵抗を  
することもできず

勢いよく吐き出される  
精液に子宮を焼かれ  
続けていました

ああああ…っ  
また…子宮に  
入ってきてる…!!!

本当に孕んでしまう…

このままじゃ…

それどころか…  
ヒカリちゃんの  
返事もない…

この精液の  
せいなの？

子宮が熱い…

この時…

私は気づいて  
いませんでした…



気づいたときは…  
既に手遅れだった  
ということ…

すでに私のお腹には  
彼らの楔が打ち込まれた  
後だということ…

私がこれ以上犯されないよう  
抵抗していると

奥から群れの長と  
思われる  
怪物が現れました

そして何より—

今まで私を犯してきた  
怪物達より  
二回りも大きい…

頭だつらてるのって…

損傷してるけど  
間違いない

—コアクリスタル!—

『ひっ!!』

…なんて  
大ききなの…!!

「待って!!」

「無理、  
入るわけないっ!!」

「やっ!!」

「やだっ!!」

まさか水着ごと  
膣内……に……!!

「やめ……っくうっ!!  
無理入るわけない!!」

「無理だからあつ!!」

「あっ!!」

ダメ……

体ごと……  
押し付けてきて……!!

「あ……あああああああつ!!」

鈍い音を立てて  
硬く閉じた子宮の入り口を  
強引に突破してきた  
怪物の性器は

その奥にある子宮壁に  
勢いよくぶつかり  
私の下腹は妊婦のように  
盛り上がりました



あ…子宮…  
壊れ…

でもまだ…

押し込んで来てる…

全部…  
入って…ない…  
から…!!



壊されてしまう…!!



こんなのプレイド  
でなければ  
シヨック死してる…

こんなの…  
続いた…ら…っ



壊れる…

壊れちゃう…っ!!

私自身が…



「あ……」  
「ああああ……」

い……いつの間にか……!?

——コアクリスタルを  
占領するための抜け道——

『バックドア』を——



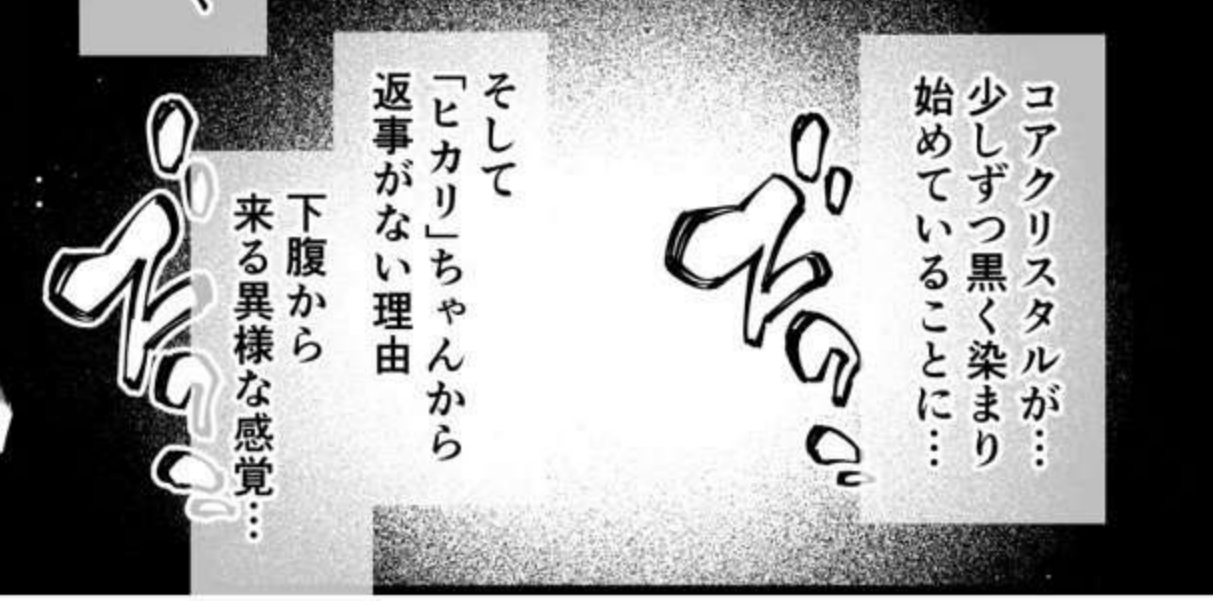
内側にも……  
何か入り始めて……

それだけじゃない……!



ここにきてようやく  
気付いたので

……これはっ?!



コアクリスタルが……  
少しずつ黒く染まり  
始めていることに……

そして  
「ヒカリ」ちゃんから  
返事がない理由

下腹から  
来る異様な感覚……



怪物達は私をむやみに  
犯していたわけではない

無防備にした私の子宮へ  
刻み付けていたのです



!?

出て来ないのでではなく  
出てこれない——

ヒカリちゃんも  
今コアクリスタルの中で  
何かに…

「だめだめだめっ!!!」

犯されているのだ  
ということに

そして

追い打ちをかけるように  
怪物がさら激しく  
私の子宮を犯してきたのです

それは「射精」の兆候

私は全力で叫び  
抵抗しました

射精させてはならない

この怪物の精液を  
受けたら本当の意味で  
敗北してしまうという

女としての本能が  
私にそう告げていたのです

そんな願いも空しく

コアクリスタルは  
次第に黒くなっていき…

ズグズグ…

雄たけびと共に  
欲望の塊が  
私の子宮に放たれたのです

何かが爆ぜる  
音と割れる音が2つ

それは私の子宮内と  
胸元で鳴り響いた

コアクリスタルは  
大きな亀裂とともに  
破裂し：

その輝きは黒い力に  
押し出されるように  
放出されました

断末魔のような悲鳴

全身の骨が砕けそうなほど  
押し付けられた私に  
逃げることはできず

快楽が全身を  
駆け巡り、私のお腹は  
妊婦のように膨れ

アソコからは  
入りきらなかった  
精液が洪水のように  
溢れ出てきたのです

「あ……がはっ……」

—その後も私は  
しばらく  
怪物の性器で  
貫かれたまま  
犯され続けました

コアクリスタルは  
輝きを失い  
完全に制御を乗っ取られ  
てしまいました

私はブレイドの力を  
行使することも  
出来なくなつて  
しまいました

力のなくなつた私は  
避妊することも出来ず

今頃子宮の中では精液が  
卵子目掛けて移動を  
しているかもしれません

私の懇願も空しく  
怪物は再び腰を  
振り始めます

「もう…許して…」

怪物が再び私の  
子宮に射精する

私は小さな  
うめき声をあげながら  
彼女の名を呼び…

意識を手放した  
のでした…

「ヒカリ…ちゃん…」



紋章を刻まれ  
意識を手放してから  
どれくらい時間が  
経ったのか

目を覚ますと  
そこには――

オキロツ!!!

彼女の  
淫らな声が  
響き渡っていたのです

ここは...カグツチ...  
...それに皆も...

皆お腹に紋章が刻まれ  
犯されている...

それに今――  
怪物がしゃべった...  
ううん、違う

「ヤット  
起キタカ女」

彼らが喋るたびに  
下腹の刻印が疼いて  
響くように  
伝わってきてる

ドライバーとの  
繋がりと違う...

逆らえない...  
従属させられ  
たように...

でも...まだ諦めないわ...

体はポロポロだけど  
まだ私は孕んでない...

隙が生まれるはず...  
孕まなければ  
きっとチャンスが...

「ママ自カケケケ  
ママナイト  
思ッテイルノカ?」



見回！  
仲間方  
無様ニ孕ム瞬間ヲナシ

「あああああっ!!」

「いやっ  
やめなさいっ!!」

「んんんんん」

「あぐうっ!!」

「そんなに激しく  
突かれたらっ!!」

「アアアアア  
卵ヲ出サセ!!」

「どうしてっ……  
エーテルが……  
……うまく……  
使えないのっ……」

「だめ……このままじゃ  
卵子が……排卵して  
しまおうっ!!」

「体の……  
体の奥から  
また……」

「んんんんん」  
抑え……きれ……  
な……いい……っ!!」

「んんんんん  
見守リヨロヨロ」

「んんんんん  
排卵シタツツ!!」

「いや、いやあああ!!  
どうして……どうしてええっ!!」

「あぐうあっ!!」

「ダメ出さないで  
卵子守れないから……っ!!」

「誰又ロオ前の子袋ハ  
トツクニ置テテルンタツ!!」  
「待ッテロ  
スクニラツカケテ  
空マセテヤルカラナマツ!!」

「んんんんん  
んんんんん」

「あああっ!!  
出すなああっ!!」

「あっ!!」

「……あああっ!!」

「……あああああああ……っ!!」



ドッ!!

アッ!!

アッ!!

ドッ!!

ドッ!!

アッ!!

アッ!!

アッ!!

アッ!!



「うん…うん…」

射精から数分…

「だ…め…こんな…  
こんな奴の種に…  
私の…大事な卵子が…」

お腹に刻まれた紋章から  
黒い煙のような  
ものが昇る…

第二の凌辱者が  
カグツチの体内で  
無抵抗な  
卵子に群がる

「……ッアアアッ!!」

ズクン……と

カグツチのうめき声  
同時に彼女の体内で  
混ざるエーテル…

化け物の子を  
孕んだのです…

そして…

「ああ…  
ニア…そんな…  
ひどい…」

精液で真っ白に  
染め上げられた体  
赤く腫れた秘所

露出した子宮と  
化け物の胎児

一体どれだけ  
激しく犯され  
だろう…

ヨイツハ俺ガ  
最初ニ  
孕マセタ雌ガ

孕まされると  
どうなるか…  
それを見せつけ  
られたのです



エロエロ  
エロエロ  
エロエロ  
エロエロ  
エロエロ

才前ラハススグ嬢レル  
人間下達ツテ  
嬢レナイ

おっはー  
おっはー  
おっはー  
おっはー  
おっはー

ソレガオ前ラ  
フレイトタマテ  
コトヲナク

ゴウ  
ゴウ  
ゴウ  
ゴウ  
ゴウ

犯ンテモ

犯ンマクンヤ  
嬢レモエ  
最高ノ孕ミ嬢!!

犯ンクモ

オオ  
トウト下胎盤  
引ッコ抜イテ  
次孕マセルツ

犯ンクモ

イクラ犯ンクモ  
嬢レモエガラナク

おっ  
おっ  
おっ  
おっ  
おっ

おっ

おっ

おっ

おっ

おっ

おっ

おっ



トイウノコ

なぐなぐ

ドンナ「抵抗シテモ  
コノ淫紋ノ前デハ  
雌デシカナインダヨ」

怪物の生殖器が  
また大きくなり始めた

まだ回復してない  
私の膈内を更に  
蹂躞するために



イク...

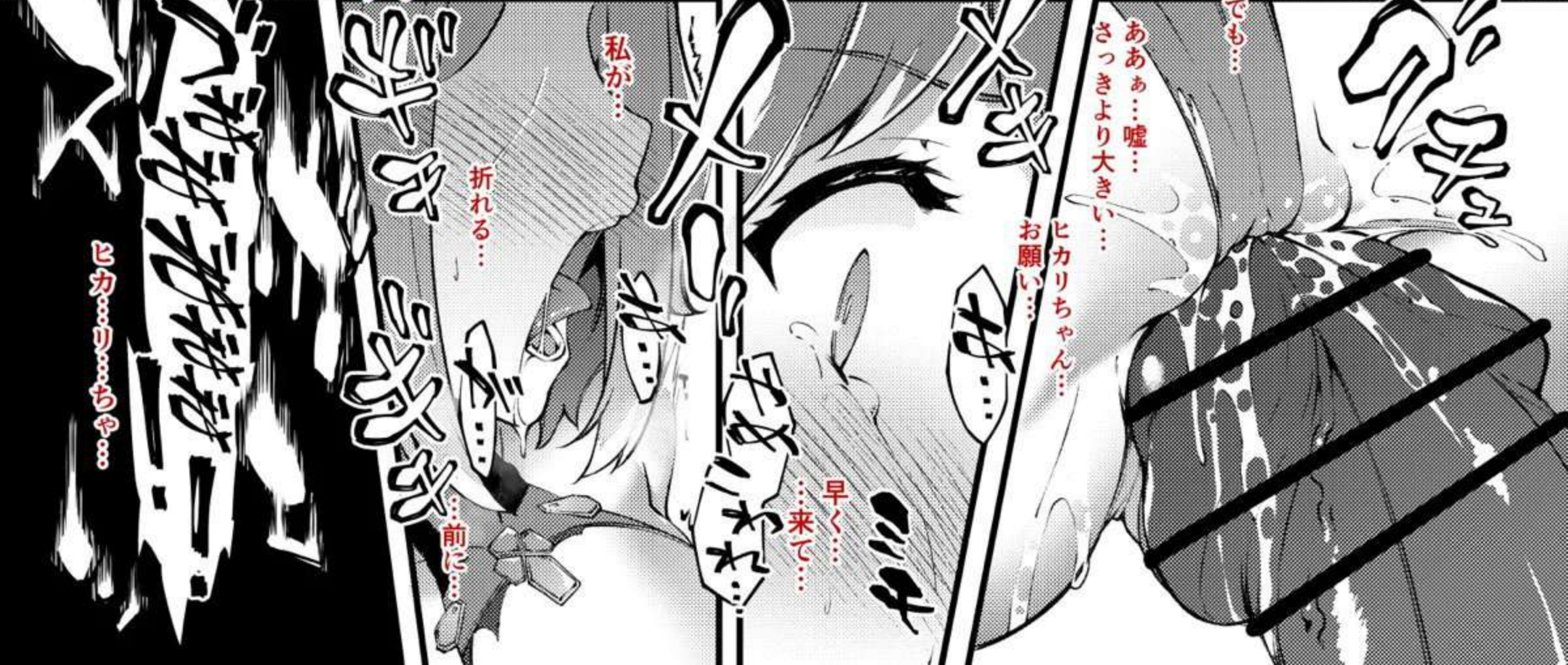
ヒカリちゃんと  
まだ交信が出来ない...

でも、私がまだ  
孕まずにいるのは  
ヒカリちゃんがこの  
紋章の効果を防いで  
くれるから...

だから排卵せずに  
コントロールが  
できてる...

きつとヒカリちゃんも  
私の中で戦ってるはず

それまで私が  
折れるわけには  
いかない...!!



でも...

ああ...嘘...  
さっきより大きい...

ヒカリちゃん...  
お願い...

早く...  
...来て...

私が...

折れる...

...前に...

ヒカ...リ...ちゃ...